

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へ、どうぞふるってご参加ください。

ふる里散歩

6/30
日

「ホテル観察会」の巻

今年のホテルとの出会いはどうでしょうか…たくさんの小さな光に出会えるといいですね。

集合/能仁寺山門前 午後7時
持ち物/懐中電灯、山道を歩ける服装、雨具
要申込/先着30名
申込先/てんたの会 042-974-1691(浅野)
参加費/300円(小学生以下100円)
★小雨決行

7/21
日

「ミクロの生態系 ——コケ観察会」の巻

最近密かに人気の、最古・最小の植物『コケ』その知られざる不思議な世界をのぞいて見ませんか。飯能河原周辺を回ります。

集合/飯能駅南口 午前9時集合
(解散:12時)
要申込/先着20名 ルーペ持参のこと
申込先/さいたま緑のトラスト協会
048-824-3661(7/1~受付)
参加費/300円(協会会員無料)
★雨天実施

キマエアオシャクの幼虫

8/4
日

夏休み親子企画

「川のいきもの、 おもしろ観察エコツアー」の巻

対象/子ども(小学生以上) 対象
ガイド/日本生態系協会 市川和男さん
集合/飯能市郷土館前 午前9時半
(解散:13時頃)
持ち物/川を歩ける服装(運動靴で)
着替え、飲み物・お弁当
要申込/先着15名
申込先/てんたの会 042-974-1691(浅野)
参加費/1000円(大人、子ども共)

9/8
日

「秋の虫を探そう」の巻

天覧山周辺にはたくさんの昆虫が生息中。
どんな虫と出会えるか楽しみです！
集合/能仁寺山門前 午前9時半
申し込み/不要
持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装
参加費/300円(小学生以下100円)
★雨天中止

【エコツアー以外共通 共催/はんのう景観トラスト・埼玉
県生態系保護協会飯能名栗支部・はんのう市民環境会議】

「ほとけどじょうの里」で第2回里山バザール開催します!!

秋の一日、石窯の周りで開く“森の市”を楽しみませんか!

詳細は後日チラシやHPでお知らせする予定です。

日 時/10月20日(日) 午前11時~午後3時

会 場/東谷津トラスト地「ほとけどじょうの里」

(アトム像のある公園を通り、天覧山登山口で右手に折れて直進100m)

連絡先/詳細問い合わせや出店希望の方は042-977-1890(早瀬)までご連絡ください。



出店者を募集中!!!

☎ 042-977-1890(早瀬)

★雨天の場合については、
現在検討中。

やませみ

65

発行日/2013年5月20日

編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)

埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビングッドフェ
ロー」「丹三郎」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。
投稿もお待ちしています。

URL=http://www.tenranzan.com/
E-mail=tenta@tenranzan.com

会員募集中!!

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した
「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円
特別会員 10,000円

●賛助会員………1口 10,000円

*会費・カンパ送り先…郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多
峯主山の自然を守る会」00580-9-16342

ハミズエダシャクの幼虫

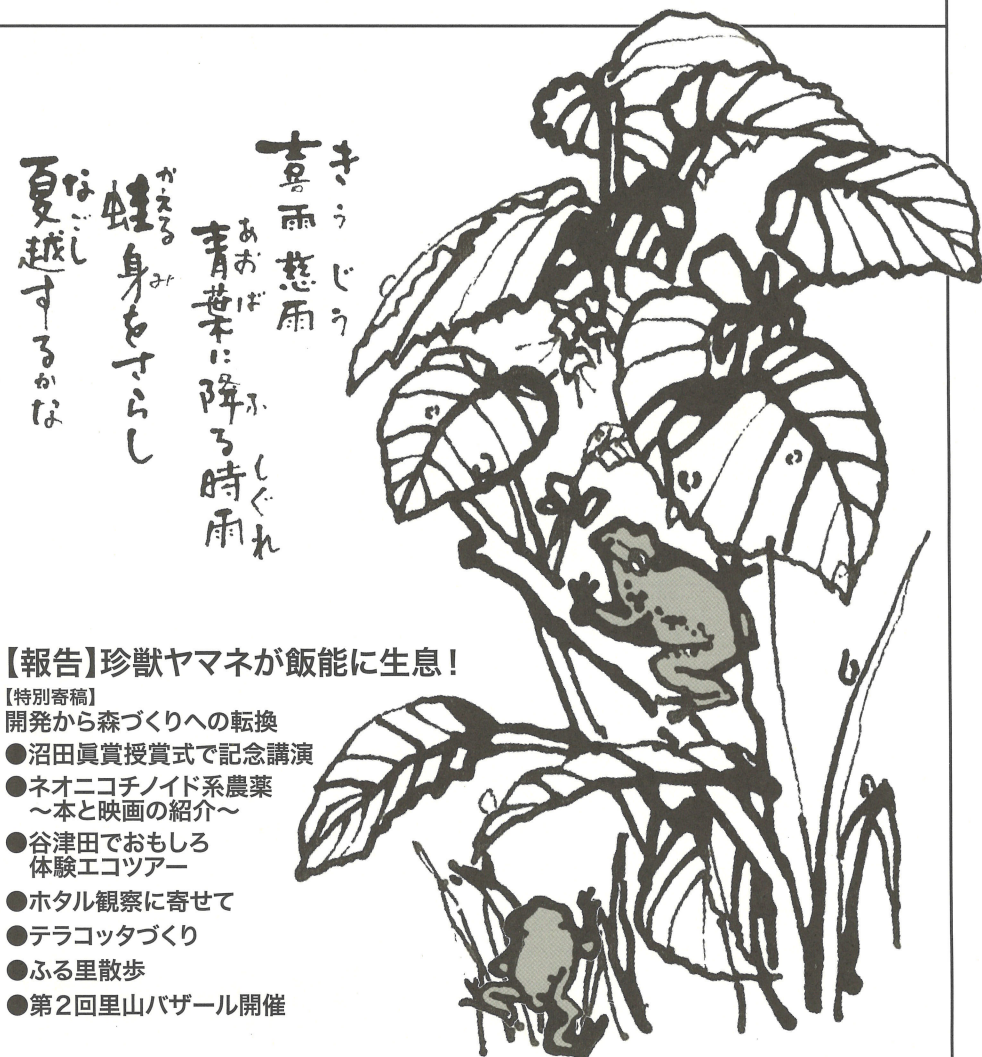


NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No.65

2013.5.20

やませみ



【報告】珍獣ヤマネが飯能に生息!

【特別寄稿】

開発から森づくりへの転換

●沼田眞賞授賞式で記念講演

●ネオニコチノイド系農薬
~本と映画の紹介~

●谷津田でおもしろ
体験エコツアー

●ホテル観察に寄せて

●テラコッタづくり

●ふる里散歩

●第2回里山バザール開催

谷津田でおもしろ体験 エコツアー



今回のツアーは「谷津田でおもしろ体験エコツアー」というタイトルで、薪割り、ピザ作り、草のバッタ作り、ガイドウォークという4つのプログラムで春の谷津田を半日めいっぱい楽しむ企画でした。

市外から5組の家族にご参加いただき、東谷津は子供の声で賑わいました。ピザ作りが大人気で、みなさん思い思いのピザを作り上げていました。石窯から出すと子供たちが大喜びで走り寄ってくるので、スタッフは火傷しないように見張るのが大変そうでした。

意外な人気だったのは薪割りです。ある小学校低学年の女の子は、最初は斧の重さのせいで薪を撫でるようにしか振れなかったのですが、3時間の間にみるみる上達！振り下ろしの際、斧にうまく自分の体重をのせてパカパカ割っていました。こんな振り方を大人は教えないので自分で工夫して編み出したんだなあと成長に感動しました。

終了後のアンケート結果も非常に良く1000000点つけてくれた子もいました。ツアー後にそのまま天覧山に登った元気な子もいたようです。

飯能市のエコツーリズムの目的の1つは潜在している魅力的な土地や、人の発掘です。東谷津という最高のフィールドがある中、私は人の発掘をしていきたいと思っています。今回は大石章さんに草のバッタ作りをやっていたいただきました。てんたの会にはいろいろな技術や知識を持った会員の方がまだまだいると思います。自然との関わりの中で、身につけた技や知識をてんたの会のエコツアーでぜひご披露ください。そして自然を大事にくれる人、てんたの会で活動していく仲間を増やしていきたいです。

(会員 柴田三四郎)

ホタル観察に寄せて

30年前の夏のある日、知人に誘われてホタル観察会に参加した。街灯一つ無い小川沿いの道を、山の奥を目指して歩いて行った。懐中電灯も持たず、星明かりだけを頼りに、夜行性の獣にでもなったつもりで、目を凝らして進んだ。風も無く、むしむしと蒸し暑い夜だった。道の両側の木々は、うっそうと葉を茂らせ、参加者の上に覆いかぶさるようにしてトンネルを作っていた。なぜか皆が無口で、しかし期待にわくわくして、漆を流したような闇に、心と目がやっと慣れた時、一本の大きな木がまるでクリスマスツリーのように輝いているのが見えた。●1年のうちのほんの数日だけ交わされ

る、ホタルたちの光の会話。飛びながらあるいは、木の葉や草の陰にじっとしながら明滅を繰り返す。同じ環境の中に生息する、違った種類のホタルでも、相手を間違えることなく、パートナーを見つけ出す。毎年繰り返される、種を残すための神秘的なドラマだと思う。●ホタル観察は、こんなホタルたちの様子を、私たちがそっと楽しませてもらうものだ。人間が観察に入ること、その生息環境も含め、ホタルの存続を脅かすものであってはならない。今年も間もなくホタルの季節がやってくる。いつまでもこの環境が残されるよう、ホタルを見に行くもの一人ひとりが、思いやりを持って出かけてもらいたい。

(埼玉県生態系保護協会 飯能名栗支部長 黒住浩次)

① 自然を守るために

- ・ホタルの成虫、幼虫を捕らないこと
- ・他所からホタルやカワニナ等を持ち込まないこと
(他所から持ち込んだものは、すべて広い意味で外来種です)
- ・喫煙、花火等は行わないこと(山火事を出さないために)

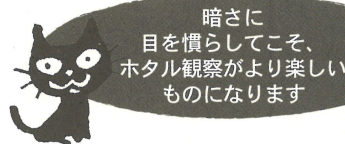
② 自身を守るために

- ・ホタル観察では、長袖、長ズボン、(長)靴で。サンダルは危険です。
- ・草むらに入り込まないこと(マムシやハチ、ダニ、蚊なども一緒に生息しています)



③ 皆で楽しくホタル観察するために

- ・懐中電灯等、照明の使用は控えること



テラコッタづくり



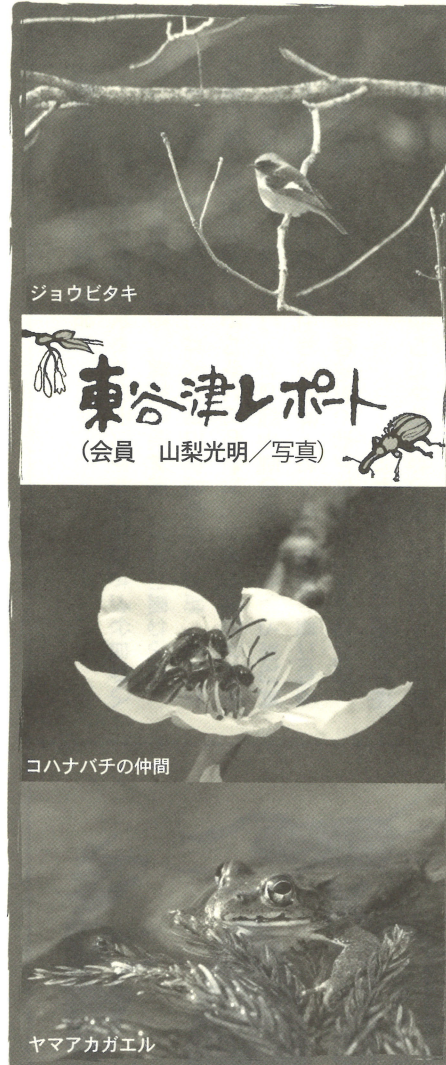
昨年の春から、メンタルな病をお持ちの方の生活支援作業所“セラヴィ”の皆さんと、テラコッタ(素焼きの彫刻)作りを、ほとけどうの里で始めた。

かつて“飯能焼き”の土を採取したと伝えられている所に隣接する、この谷津田の里での粘土取りが作業始めとなった。この土を手で捏ねて異物を除き、練り上げ、お地藏様、動物、顔のレリーフなど、みんなで作りたいものを選び、セラヴィ作業所での粘土細工を続けた。

秋になって、それまで作ったものも沢山になり、焼き物をするのに良い季節となった。私たちは出来上がった作品を持って再びほとけどうの里を訪ねた。ここには“てんたの会”の手作り石窯があり、ピザやパンやいろいろな焼き物を薪で焼いている。私たちは作品を石窯に入れ、薪を焚いて一日過ごした。

こんな風にして、素材から道具、そして制作の時も場も、みんな自分たちの手作りで、テラコッタは焼きあがった。

(会員・彫刻家 早瀬成憲)



浅野会長が授賞式に参加してきました。

20世紀後半の高度経済成長の時代には経済的価値ゼロとして見捨てられそうになった里山の自然が、現代社会にとって大切なものとして意識が共有化されて来ています。こうした社会の形成に今後とも尽力していく事に期待を込められての今回の受賞となったのではと感じています。(てんたの会代表 浅野正敏)

※1 日本の代表的環境NGOである日本自然保護協会が、平成元年の設立50周年を記念して、自然保護や自然保護教育に関する研究や実践ですぐれた実績を挙げた者を顕彰し奨励する「沼田眞賞」を設立。

沼田眞賞授賞式で記念講演

第12回沼田眞賞(※1)を、研究者など個人4人の方と当会1団体が受賞し、今年2月3日に江東区の清澄庭園・大正記念館で授賞式が行われました。

授賞式終了後、各受賞者による記念講演に移り、当会からは、飯能市における里山保全活動について話をしました。

講演内容は、天覧山・多峯主山の歴史概観を説明した後、飯能市街地周辺における70年代の丘陵地開発の状況、その時代の飯能市民による自然保護運動を前置きとして、1995年の新たな開発申請に対しての「変更を求める署名運動」及び「保全のための直接請求運動」など当会の発足経緯について触れました。

その後、開発着手寸前のオオタカ宮集

【特別寄稿】

開発から森づくりへの転換

西武鉄道株式会社 管財部 菊地 三生

2008年5月に天覧山と多峯主山に挟まれた森を「飯能・西武の森」と名付け、森づくり事業を開始、今年で5年目を迎えることになりました。この間、間伐・枝打ち等の整備を進めた結果、安全・安心の明るい森になり、飯能市エコツーリズムの重要拠点にもなりました。森づくり事業を支援していただいた行政・市民・自治会・環境団体・ボランティア等の方々に御礼申し上げます。

さて、当社が住宅地開発から森づくりへの転換に至った経緯を簡単に述べさせていただきます。

1967年から住宅地建設等を目的に用地の取得を開始、1968年に都市計画法が制定され、1970年に市街化調整区域になりましたが、1979年に76haが市街化区域に編入され住宅地建設が可能になりました。当時は戦後のベビーブーム世代が家庭を持ったこと、首都圏への人口流入増加の二点から、住宅地の大量供給が社会的急務でした。また、高度経済成長期でもあったため、勤労者がマイホームを持つこ



写真提供：西武鉄道株式会社

とが経済的に可能となり、郊外住宅購入がブームでもありました。飯能では美杉台、飯能日高の大規模分譲地が造成され多くの人が移り住んで来ました。

ところが1990年代に入ると少子高齢化社会となり、郊外住宅の需要に陰りが生じたことにより2005年に住宅地建設を断念、翌年4月に市街化調整区域に編入されました。地球環境の悪化が問題となり、自然環境保全の必要性の高まりを受け、2008年5月に企業の社会的責任(CSR)の一環から、環境保全に貢献する土地利用に転換いたしました。

最後に、当社は「飯能・西武の森」を沿線住民・飯能市民の方々に親しんでいただけるように、地域の方々と協働で森づくり・里山再生を進めていきたいと考えております。

気になりますね...ネオニコチノイド系農薬 本と映画の紹介

1990年代初めから世界各地でミツバチの大量死や大量失踪がニュースとなっていましたが、なんと、2007年春までに北半球から4分の1の蜂が消え、2009年、日本全国の2億匹のミツバチが1年で死んだそうです。

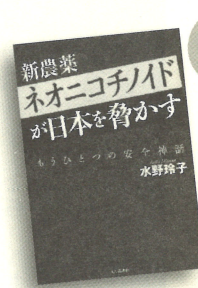
その直接原因とされているのがネオニコチノイド系農薬。ネオニコチノイドは神経毒性、残効性、浸透性の強さが特徴で、ミツバチはもとより、他の昆虫類、生態系、人への影響が懸念されています。EUなどでは既に使用禁止となった国もあります。

てんたの会でも2010年の総会終了後に、「ミツバチからのメッセージ」という映画を見せていただき、映画製作に関わられた御園孝さんからお話をうかがいました。それ以来、身近な自然環境の変化が気になっています。我が家は標高400m程の山里にあり、住んで30数年になりますが、ここ10年程の間に急激に虫が少なくなってきたと感じています。以前、夏の夜などは驚くほど沢山の昆虫が飛んできましたが、最近はめっきり少なく、それに伴い昆虫を捕食するカエルや鳥も激減しています。

ネオニコチノイドは、イネや野菜、果物などの農産品への使用のみならず、松枯れ防除やシロアリ駆除、家庭用殺虫剤、ペットのノミ取りなど、私たちの生活の中に蔓延しています。

早急に対策を取らなければ、日本の生態系はどうになってしまうのかと、本当に心配です。ネオニコチノイドに関する本やDVDなどをいくつか紹介します。みなさんもぜひ調べてみてください。

(会員 早瀬あかね)



本

『新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かすもうひとつの安全神話』 水野玲子著 (2012年、七つ森書館)



DVD

『ミツバチからのメッセージ』 企画・製作 ミツバチを救え！DVD製作プロジェクト実行委員会 mitubachi-sukue@kph.biglobe.ne.jp



本

『虫がいない鳥がいない』 久志 富士男・水野 玲子 共著 (2012年、高文研)

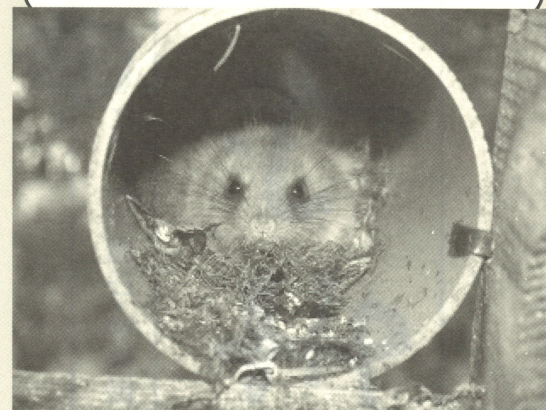


DVD

『赤とんぼがいない秋』 制作委員会 岩崎 充利 埼玉県比企郡小川町角山894-2 〒355-0316 Tel&Fax 0493-74-6134 ☒ akatonboinai@gmail.com

■ネオニコチノイド系農薬中止を求めるネットワーク http://no-neonico.jp/about_vision/
■ダイオキシシン・環境ホルモン対策国民会議 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21戸田ビル4階 Tel:03-5368-2735 Fax:03-5368-2736

調査にご協力ください！



調査巣箱のヤマネ (提供・筑波大学八ヶ岳演習林)

調査では、夏までに90個の巣箱を山間部各地に設置する予定です。設置に御協力をいただける方は御連絡ください。また、過去現在を問わず市内でヤマネを見た(聞いた)ことがある方は、是非御連絡ください。講演会もおいでください。

ヤマネ講演会

入場無料

6月9日(日) 14:30~16:30 富士見地区行政センター (公民館) 集会室 講師：筑波大学八ヶ岳演習林・杉山昌典氏 連絡先：ezh01701@nifty.com (大石) 042-974-1691 (浅野)

珍獣ヤマネが

飯能に生息！

「うちの猫がヤマネを捕ってきたよ。」 当会の昨年12月の定例会での参加者の何気ない一言は、私には衝撃的だった。その写真を送ってもらうと確かにヤマネだ。猫が捕ったのは2度目だとのこと、生息は間違いない。

飯能の、それも標高400m程度の山間地にヤマネがいるはずがない。国の天然記念物・ヤマネは埼玉県では秩父だけに生息している(県レッドデータブックでは、秩父市や両神山等に生息する。飯能市の報告書にも生息の記録はない)。近くでは高尾山に生息していることは知っていたが、ヤマネは広葉樹林を好み、杉檜林ばかりの飯能にはいないという思い込みがあった。しかし、知り合いに聞いてみると、「高尾山の頃、名栗に観察に行った」「昔、天覧山で見たことがある」との

話まで出てきた。こんな珍獣が生息しているのに知られていないのは、飯能エコツーリズムにとって損失だ。TV等でも紹介されるなどヤマネは可愛く人気があるので、エコツアーの目玉になるだろう。一方、市内での保護意識も高める必要がある。そこで、当会で、飯能市のヤマネ生息調査を行うこととなり、飯能市も支援してくれることになった。

(ヤマネ調査隊 大石 章)

調査開始に先立つ3月、ヤマネで有名な八ヶ岳を訪問した。筑波大学八ヶ岳演習林ではヤマネ調査を行っており、現地を案内していただいた上、飯能での調査を無償で支援してくれることになった。調査は、筑波大学が開発した軽く設置の容易な巣箱を使用し、果材の持ち込みの有無で生息を確認する。このほか、山間部の方々から情報提供を求め、過去からの生息状況をまとめた。